

E-1621

0462

(分類 E4.110.1-1)

公第四九號

昭和六年三月二十五日

在ブラゴエスチエンスク

領事代理 泉 顯 藏



外務大臣 野村胡堂 喜重 郎 殿

極東地方ニ於ケル「ホルホス」加入農戶
數ニ関スル件

極東地方農務局ニ發表スル所ニヨレハ三月十日現在ニ於ケル同地方内「ホルホス」數ハ九三二之ニ加入セル農家四四〇一五戸ニシテ自三月一

米局

第一號

昭和六年四月拾日 接受

記

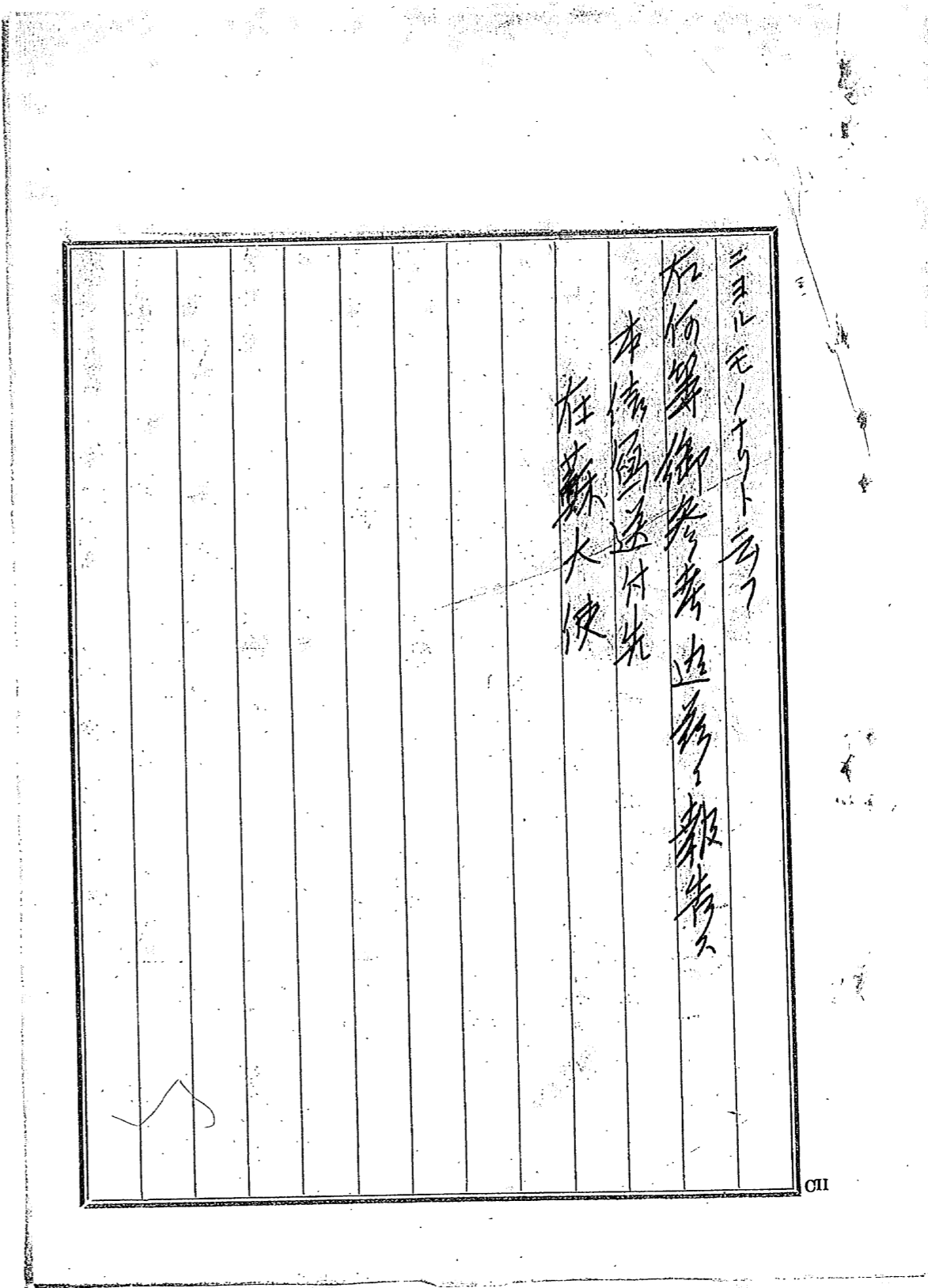
各回農務局
米局
昭和六年四月拾日

日至三月十日之間ニ新ニ「ホルホス」加入セル農家一、三三五戸 既ニ退セル農家二五八戸 差引九七七戸ノ増加ヲ見タル次第ナルガ 内當館管内ニ於ケル新加入農家數ハ「ガウイ」チンスキー區(ライオン)一、二七四戸、「三ハイロフ」スキー區一、七四戸、「アルハリ」ンスキー區一、六八戸、「タン」ホフスキー區一、三三三戸算ナルガ「アル」ゼヤスキー區ニテハ一、二四戸ノ既退農家ヲリレノミナラズ「スウ」カボトホフスキー區「アレ」キサレウロフスキー區及「タン」ホフスキー區算ノ若シテモ既退者相當アリタル概ニテ其ノ主たる理由ハ「ホルホス」員ノ理解ナキ爲メニ並ニ「區」者者ノ活動振リ思ハシカラス也

CII

E-1621

0463



CII

E-1621

0464

(分類 E4.1.0.1-1)

外務省
公第三五五號

昭和六年八月七日

在「ソヴェエト」聯邦

特命全權大使 廣田 弘毅



外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

極東ニ於ケル赤軍歸休兵ノ「コルホーズ」
誘引ニ關スル件

「ソ」聯邦政府ハ人口稀薄ナル極東地方開發ノ爲メ更ニ赤軍既休兵中
ヨリ極東行移民ヲ募リ同地方ニ於ケル「コルホーズ」經營ニ當ラシメ
ムトノ計畫ヲ建テ之カ實施ニ努メ居ル模様ナル處七月二十二日聯邦陸
海軍人民委員部機關紙「クラスナヤ、ズヴェズダ」ハ右ニ就キ赤軍歸

休兵ヲ「コルホーズ」ニ誘引スルニハ極東移民ノ政治的及經濟的重要
性ヲ赤兵ニ説明スルト共ニ赤兵カ移住セムトスル個々ノ「コルホーズ」
ニ就キ具體的條件ヲ説明スル必要アリ而シテ右移民ノ募集ハ九月一日
迄ニ終了スル様速ニ右移民ヲ奨勵セサルヘカラスト爲ス「エス、ステ
パノフ」ナル者ノ記事ヲ掲載セリ
右御參考迄報告ス

BII

昭和六年九月四日

接受

各局長官政案
外務省
昭和六年九月四日

(分) EY. No. 1-1

上田 芳澤
通商局長

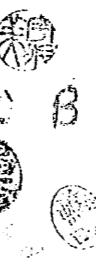
欧米局

公第四二號

昭和七年二月十八日

在「ソヴェエト」聯邦

特命全權大使 廣田 弘毅



外務大臣 芳澤 謙吉 殿

昭和七年三月八日

地方改革

「コルホーズ」ノ生産向上策ニ關スル件

「ソ」聯邦共產黨カ一九三一年八月二日附同中央委員會ノ「コルホーズ」化ノ速度及「コルホーズ」鞏固化ノ使命ニ關スル決定ヲ以テ從來ノ「コルホーズ」化強行政策ニ一轉換ヲ加ヘタルコトニ付テハ昭和六年八月十五日附公第三五九號ヲ以テ報告ノ通ニシテ同決定ハ之ヲ概言スレハ(一)重要穀産地方ノ「コルホーズ」化ハ根本ニ於テ

在ソヴェエト聯邦日本大使館

終了セルカ故ニ同地方ニ於テハ今後「コルホーズ」化ヲ行ハサルコト(二)其ノ他ノ地方ニ於テハ「コルホーズ」化ノ速度ヲ著シク緩和スルノミナラス而モ「コルホーズ」ヘノ強制加入ヲ嚴禁シ農民ノ自由意思ヲ尊重スヘキコト而シテ(三)爾今共產黨ノ「コルホーズ」化政策ノ重心ハ専ラ之ヲ既成「コルホーズ」ノ保持改善ニ置クヘキコトヲ命セルモノニシテ換言スレバ「ソ」聯邦共產黨ノ現時ノ「コルホーズ」化政策ハ「コルホーズ」ノ數ノ増加ヨリモ其ノ内容ノ改善充實ニ基ク「コルホーズ」生産(即チ大量生産)ヲ所期スルニアリト謂フヲ得ヘキ處黨中央委員會ハ二月四日附ヲ以テ「コルホーズ」ノ組織的、經濟的鞏固化ノ爲ニ必要ナル方法」ニ關スル決定ヲ發布シ「コルホーズ」ノ内部的改善ニ關スル具体的方法ヲ示セリ同決定ノ要旨左ノ如シ

一 黨中央委員會ハ一切ノ黨機關ニ對シ「コルホーズ」ノ組織的、經濟的鞏固化ハ現時ニ於テハ先ツ第一ニ「コルホーズ」ノ「アルテ」的形態ノ發達助長及鞏固化ニアルコトヲ指摘ス何トナレハ

在ソヴェエト聯邦日本大使館

E-1621

0466

アルテリ」ヨリ「コム」ナ」へノ轉換ノ人爲的促進ハ「コルホー
ズ」ノ現發達階梯ニ於テハ重大ナル危險ヲ伴フカ故ナリ
「春播ノ準備及收穫ノ増加ニ關聯シ中央委員會ハ「アルテリ」ナ
ル形態ニ於ケル「コルホーズ」ノ組織的、經濟的鞏固化ニ付左記諸
事項ハ其ノ現階梯ニ於テ最も重要ナルモノタルコトヲ指摘ス
「一、「コルホーズ」内ニ「コルホーズ」員ヨリナル一定人員ノ常設
部隊（ブリガード）ヲ組織シ常時一定ノ地區ニ於テ勞働セシメ之ニ
必要ノ農具及家畜ヲ分與シ其ノ勞働ノ評價ハ成績ニ應シ上下スルコ
ト
「但シ右地區ノ割當ハ必要ニ應シ一定期間（例ヘハ耕作、收穫）ニ
限定スルヲ妨ケス
「三黨機關ハ自己ノ任務トシテ部隊長ノ選擇、部隊員ノ移動ノ防止
及部隊長ノ經濟的智識ノ向上ヲ行フコト
「成績ニ應シ行ハルヘキ部隊員ノ勞働ニ對スル支拂ニ付昨年度ノ優
良「コルホーズ」ノ例ヲ廣ク適用スルコト

在ソヴェト聯邦日本大使館

「部隊長ノ責任ヲ大ニシ勞働ノ組織ニ關シ廣キ權限ヲ賦與シ以テ「
コルホーズ」ノ一般管理費ヲ輕減スルコト
「三第六回「ソヴェト」大會ニ於テ決定セラレタル出來高制度ノ
採用、計算方法ノ改良及勞働ノ量及質ニ應シ勞働ヲ勞働日ニ換算ス
ルノ方法ハ依然「コルホーズ」改善ノ最重要點タルヘキコト
「但シ極度ニ複雑ナル出來高制度及累進的出來高制度ノ採用、生産
條件上必要ナキ場合（例ヘハ耕作、打穀）ニ個人的ノ出來高制度ノ
採用、金錢ニ依ル勞働ノ支拂、黨及「ソヴェト」機關ノ「コルホ
ーズ」管理代行、「コルホーズ」定款所定ノ各種基金ノ増額ハ之ヲ
禁止ス
「四家畜「コルホーズ」ニ優良家畜「コルホーズ」部隊ノ實例ヲ廣
ク適用シ且其ノ勞働ニ對スル支拂ハ成績ニ應シテ行フコト
「五「コルホーズ」及黨機關カ「コルホーズ」ノ積極的分子ヲ拔的
且教育シ地方機關ハ其ノ協力ニ依リ收穫増加、穀物蒐集計畫ノ實行、
「コルホーズ」員ノ社會主義的教化等ヲ行フコト

在ソヴェト聯邦日本大使館

「六」コルホーズ」ノ組織的、經濟的鞏固化、積極的「コルホーズ」分子ノ養成及收穫ノ増加ニ關シ「トラクター」配給所ハ重大ナル役割ト責任トヲ有スルニ鑑ミ黨機關カ同配給所ニ對シ就中其ノ人員ノ充實ニ付援助シ且其ノ經濟活動ニ對スル指導ヲ鞏固ナラシムルコト

三、右決定ニ關聯シ二月七日ノ「ブラウダ」及九日ノ「イズヴェスチヤ」ハ各々社説ヲ掲ケタルカ其ノ要旨ハ之ヲ綜合スルニ「現在「コルホーズ」ノ三形態タル「コムイナ」、「アルテリ」及共同土地耕作組合ハ〇、二%、九三%及六、八%ニシテ之ニ依リ見ルモ現在ニ於テハ「アルテリ」カ「コルホーズ」ノ最も適當ナル形態ナルコト明カナルカ最近行政的手段ヲ以テ「コルホーズ」(即チ「アルテリ」)ノ個人經營部門ヲ破壊シ甚タシキハ收益ノ分配ニ際シ同部門ノ存在ヲ無視(例ヘハ個人所有ノ家畜ニ對シ飼料分配ノ拒否)スル幾多ノ事例アリ又或ハ^{收養ノ分配}勞働日ニ應シテ行ハスシテ單一食料基金ヲ設ケテ中央集權的ニ「コルホーズ」員ノ給養ヲ行ヒ或ハ「コルホーズ」ハ既ニ充分完全ナル組織ヲ有セリトナシテ安ニ「コルホーズ」

在ソヴェエト聯邦日本大使館

内ニ大工業生産ヲ起サントシ或ハ各「コルホーズ」員ニ一定地區ヲ割當テ個人的經營ヲ行ハシメ且累進的出來高主義ヲ採用シ又ハ金錢ニテ支拂ヲ行ヒ又ハ「コルホーズ」ヲ「ソブホーズ」ニ化シ「コルホーズ」員ヲ「ソブホーズ」ノ勞働者ト同一ノ待遇ヲナサントスル等ノ幾多ノ事例アリ(今同ノ決定ハ先ツ第一ニ「コルホーズ」ノ現發達階梯ニ於ケル形態ハ「アルテリ」ニシテ而モ同形態ハ未タ充分ニ發達且充實セラレ居ラサルカ故ニ「コルホーズ」ノ組織的、經濟的鞏固化トハ「アルテリ」ナル形ニ於ケル「コルホーズ」ノ鞏固化ヲ意味スルモノナルコトヲ指摘スルト共ニ右各種ノ反則ヲ速ニ終止スヘキコトヲ命シタルモノナルカ同決定中最モ重要ナルハ各「コルホーズ」ニ部隊ヲ組織シ之ニ一定ノ地區ヲ割當テテ原則トシテ同地區ニ於テ農事勞働ノ一切ヲ責任ヲ以テ行ハシムル點之ナリ(一)一般ニ「コルホーズ」部隊ノ組織ハ容易ナリト考ヘ居ル如キモ然ラス部隊長ノ選出、其ノ經濟的、政治的智識及其ノ責任觀念ノ向上、出來高ノ標準ノ決定等幾多ノ困難ナル問題アリ然レトモ若シ吾人ノ努

在ソヴェエト聯邦日本大使館

力ニ依リ「コルホーズ」部隊ノ組織完全ニ行ハレ且同決定ノ他ノ諸
點遵守セラルルトキハ「コルホーズ」生産ノ向上、一九三二年度ノ
計畫ノ實行ハ勿論又第二次五年計畫ノ重大ナル使命モ之ヲ實現スル
ヲ得ヘント謂フニアリ

四今「ソヴェエト」政權ノ「コルホーズ」生産向上策ノ跡ヲ見ルニ先
ツ第一ニ「コルホーズ」ノ收益分配ニ關シ客年三月從來ノ頭割制度
ヲ廢止シテ出來高主義ヲ採用シ以テ「コルホーズ」員ノ「コルホ
ーズ」生産ニ對スル利害心ヲ助長シ第二ニ同年八月「コルホーズ」化
ノ終止乃至緩和ヲ命スルト共ニ爾今主力ヲ既成「コルホーズ」ノ内
部の改善ニ注クヘキヲ命シタルカ今回ノ決定ハ正ニ右「コルホーズ」
生産向上策ノ行程ニ於テ第三期ヲ劃スルモノナリ
抑々今回ノ決定ノ重點カ「コルホーズ」内ノ労働ヲ部隊組織式ルコ
トニアルハ前記新聞論調ニ見ルモ明カナルカ然ラハ從來ノ「コルホ
ーズ」ノ労働ノ組織ニ比シ部隊制度ニ依ル「コルホーズ」労働ノ組
織ノ異ナル點(特徴)如何其ノ主ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

在ソヴェエト聯邦日本大使館

- (一)「コルホーズ」内ニ多數ノ部隊ヲ組織シ之ニ「コルホーズ」員
ヲ分屬セシメ部長ノ指導監督ノ下ニ服セシムルコト(組織ノ集
約化)
 - (二)右各部隊ニ原則トシテ一定地區ヲ附屬セシムルコト(勞力ノ合理
化)
 - (三)右各部隊ニ對シ必要ノ農具及家畜ヲ貸與シテ其ノ保存ニ付全責任
ヲ負ハシムルコト(農具、家畜ノ毀損ノ防止)
 - (四)右各部隊ヲシテ其ノ附屬地區ニ於テ原則トシテ全農期ヲ通シ(即
チ耕作ヨリ收穫ニ至ル迄)労働セシムルコト(獨立經營、責任ノ
増大)
 - (五)「コルホーズ」員ノ労働日ノ評價ハ右各部隊ノ労働ノ成績如何ニ
應シ上下セシムルコト(労働ノ生産能率ノ増進)
- ↑若シ果シテ然ハ此ノ労働ノ新ナル組織ハ「コルホーズ」員ヨリ
↑ナル各部隊ノ「コルホーズ」内ノ一定地區ニ於ケル所謂獨立經營
↑主義ノ採用ニシテ(前記新聞論調ニ依レハ個々ノ「コルホーズ」

在ソヴェエト聯邦日本大使館

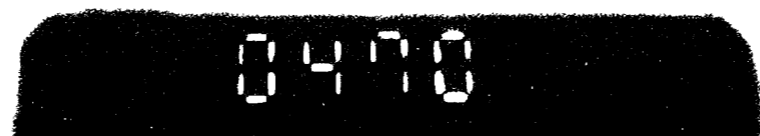
員ニ獨立經營ヲ許スコトヲ不法トシ居レルモ部隊制度ニ依ル獨立經營ナルモノハ其ノ組織如何ニ依リテハ謂ハハ個々ノ「コルホーズ」員ノ獨立經營ノ異ナル形式即チ舊個人農戶ニ其ノ舊土地及農具ヲ與フル所ノ個人經營ノ集合一極言スレバ「コルホーズ」ナルモ實質ハ個人經營トナリ得ルコト果シテ然ラハ右ハ理想ノ著シキ後退從テ生産的タリ得ヘキコトハ注意ヲ要ス（從テ從來ノ勞働ノ組織ノ根本的改革ニシテ而モ右ニ依リ明カナルカ如ク從來ノ夫レニ比シ著シク集約的、合理的且生産的（部隊ノ組織如何ニ依リテハ右ノ如ク甚タシク個人主義的）ナリト謂フヲ得ヘシ然リ而シテ吾人カ今回ノ決定ヲ以テ「ソヴィエト」政權ノ「コルホーズ」生産向上策ノ行程ニ於テ新ナル一時期ヲ劃スルモノナリトナセル所以ナルカ今若シ此處ニ他方「ソヴィエト」政權ノ農業機械化ノ孜孜タル努力（一九三一年度ニ於テ「トラクター」配給所ヲ一千四百ヶ所ニ達セシメントシ一九三二年度ニハ更ニ一千七百ヶ所ヲ新設シテ合計三千百ヶ所ニ達セシメントス）ヲ考慮ニ入ルルトキハ右

在ソヴィエト聯邦日本大使館

ノ「コルホーズ」ノ内部的改善ノ新ナル方針ニシテ若シ今後漸次實現セラルルニ於テハ右ハ此ノ農業機械化ノ努力ト相俟テ「コルホーズ」生産ノ將來ノ向上ニ資スル所更ニ大ナルモノアリト謂フヲ得ヘシ（因ミニ當局ノ發表ニ依レハ現在全「ソ」聯邦ニ於テ集團化セラレタル農戶數ハ全農戶ノ六二%ニシテ其ノ播種面積ハ全農戶播種面積ノ七九%ナリ）尙此ノ點ニ關シ今回第十七回黨會議ニ於テ採擇セラレタル第二次五年計畫作成ニ關スル命令ハ農業ノ部門ニ於テ「トラクター」配給所ノ活動ヲ全「コルホーズ」ニ及ハシメ而シテ根本ニ於テ農業生産ノ機械化ヲ完了シ以テ農業ノ社會主義的改造ノ完成ヲ命スルト共ニ「コルホーズ」ノ組織的、經濟的鞏固化ハ第二次五年計畫ニ於テモ亦其ノ重點タラサルヘカラストナシ居レリ

右報告ス
本信寫送付先 在英、佛、獨各大使

在ソヴィエト聯邦日本大使館

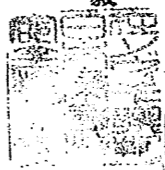


公第三四一號

昭和七年九月十九日

在「ソヴィエト」聯邦

特命全權大使 廣田 弘毅



外務大臣伯爵 内田 康哉 殿

「コルホーズ」ニ個人農所有馬匹賃借權付與ニ關スル件

聯邦中執委員會及人民委員會議ハ九月十一日附ヲ以テ「播種、穀物買付及穀物、甜菜、野菜運搬」ノ爲ニ個人農ノ馬匹利用ニ關スル決定ヲ發布シ「コルホーズ」ニ對シ右目的ノ爲ニ個人農ノ馬匹ヲ賃借スルノ權限ヲ付與スルト同時ニ個人農ニ對シ右目的ノ爲ニ自己所有ノ馬匹

在ソヴィエト聯邦日本大使館

昭和七年拾月拾日 接受

ヲ「コルホーズ」ニ賃貸スルノ義務ヲ課シ且「個人農ノ馬匹ヲ賃借スル」「コルホーズ」ニ對シ賃借中同馬匹ニ充分ニ飼糧ヲ與フヘキコト及使用後ハ完全ナル状態ニ於テ之ヲ所有者ニ返還スヘキコトヲ命セリ抑々本決定ニハ前記文ナク從テ右決定發布ノ理由明カナラサルモ惟フニ「ソヴィエト」政權カ今日特ニ本決定ヲ發布セルハ現時農産減少ノ脅威ヲ前ニシ之カ救済ヲ保障スヘキハ播種面積ノ大部分ヲ占ムル「コルホーズ」ナル處「コルホーズ」化ノ強行ハ馬匹ヲ著シク減少セルニ農業機械化ノ速度ハ「コルホーズ」化ノ速度ニ伴ハス之ニ加フルニ「コルホーズ」ニ於ケル馬匹ハ其ノ共同經營上飼養ノ不完全ト之ニ加フルニ其ノ酷使（例ヘハ播種面積ノ擴大等ノ結果）トノ爲ニ更ニ減少セル結果今若シ「コルホーズ」生産ヲ救済（速ニ刈入レ速ニ打穀シ速ニ運搬シ所謂農産ノ喪失ヲ防止スルコトニ依リ）シ且其ノ將來ヲ保障シ先ニ第一ニ冬時及春時用耘耕（セントセハ結局索引力ヲ個人農ノ馬匹ニ求メサルヲ得サル現實的必要ニ出ツルモノト看做スヲ得ヘキカ如シ若シ果シテ然ラハ右決定ハ之ヲ半面ヨリ見レハ一ツハ再ヒ「コルホ

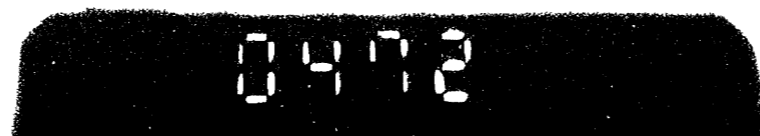
在ソヴィエト聯邦日本大使館

ズ一ナル農業經營形態其レ自体ノ内部組織ノ不完全乃至不秩序ト一ツ
 ハ又再ヒ本年度一般農産ノ思ハシカラサルヲ如實ニ物語ルモノニ外ナ
 ラサルカ然ラハ右決定ニ依ル「コルホーズ」ヘノ馬匹ノ保障ハ如何ナ
 ル程度迄右事態ヲ匡救シ得ヘキヤ惟フニ吾人ハ其ノ效果タル實ニ微々
 タルモノアリト看做ササルヘカラサルカ如シ
 抑々右決定ノ結果「コルホーズ」カ馬匹ヲ比較的多數ニ保障セラレ本
 年度農産ニ於ケル所謂喪失ヲ比較的減少シ又本年度冬蒔以降播種面積
 ヲ比較的擴大シ得ヘキコトハ之ヲ認メサルヘカラス然レトモ此ノ點ニ
 關シ吾人ハ個人農カ果シテ幾何ノ馬匹ヲ「コルホーズ」生産ノ右ノ消
 極的及積極的向上ハ何レモ凡テ個人農生産ノ勘定換言スレハ個人農生
 産ノ減少ヲ代償トシテノミ行ハルルモノタルコトヲ看過スヘカラス何
 トカレハ「コルホーズ」ノ農繁期ハ個人農ノ農繁期ニ外ナラスシテ從
 テ「コルホーズ」ヘノ馬匹賃貸ノ義務ハ個人農ヨリ事實上一ツノ
 重大ナル生産手段ヲ奪フコトニ外ナラサルカ故ナリ
 而シテ他方第三ニ個人農ヨリ馬匹ヲ奪フコトハ右個人農ノ重大ナル生

在ソヴィエト聯邦日本大使館

産手段ヲ農繁期ニ奪フコトノ外個人農生産ヲ向上シ得ヘキ農産物ノ市
 場販賣ノ可能性ヲ奪フコトヲ意味ス何トナレハ農産物市場販賣ニ於ケ
 ル仲介者介在ノ嚴禁（八月二十三日附決定ヲ以テ轉賣投機業者二十年
 乃至五年ノ刑ヲ課スルコトス）ハ農民自ラ農産物ノ市場搬出ヲ必要
 トスルカ故ニシテ而シテ又第三ニハ個人農ヨリ馬匹ヲ農繁期ニ奪ヒ農
 閑期ニ返還スルコトハ結局個人農ヲシテ一假令代償ヲ受クルモ農村ノ
 現状ニ於テハ工業品ハ素ヨリ飼糧ニ依リ之ヲ受クルヲ得ス結局少數ノ
 金錢ニ依ルヘキカ故ニ收支償バズ從テ事實自己ノ費用ニ依リ「コル
 ホーズ」用馬匹ノ飼育者タラシムルコトヲ意味シ而シテ其ノ結果ハ更
 テタニ「コルホーズ」ニ於テ酷使セラレタル馬匹ハ結局個人農ノ手
 於テモ自然等閑ニ附セラレ其ノ結果馬匹ハ自然其ノ質ヲ低下シ又其ノ
 數ヲ更ニ減少スルコトナシ難シ果シテ然ラハ右決定ノ結果農産
 ハ結局之ヲ要スルニ一般的ニハ差シテ向上シ得ヘキモノトハ看做スラ
 得サルヘク然リ而シテ之レ即チ吾人カ今回ノ決定カ「コルホーズ」生
 産ノ向上ニ多少ノ效果ハアルモ其ノ「コルホーズ」及個人農生産（全

在ソヴィエト聯邦日本大使館



農戸ノ約四割ハ個人農ホリマラ含ム一般農業産向上ノ見地ヨリハ其ノ
 效果甚タ微々タルモノアリトカセル所以ナルカ(新聞カ本決定ニ關シ洗
 黙ヲ守レルハ興味アル所ナリ)惟フニ「ソヴイェト」政權カ斯塔ス如
 キ手段ヲ以テシテモ尙且今ヤ農産救済ノ應急的措置(遣リ繰リ)ヲ講
 セサルヘガラサル之レ謂フ迄モナク實ニ其ノ由テ來ル所「ソヴイェト」
 「政權カ餘リニ慮大ナル」コトホトズ「化計畫ヲ強行シタルヨド其レ
 自体ニ存スル處若シ事情果シテ右ノ如シトセハ「ソヴイェト」政權ニ
 シテ若シ少クトモ「コルホトズ」化ノ現狀ヲ保持スル以上ハ今後農業
 機械化ノ充分ニ發達保障セララル迄ハ「多數旅行者ノ言ニ依レハ南露
 主要穀産地ニ於テモ「トラクタ」等ノ活動スルヲ殆ント目撃セスト
 謂フ」未タ斯クノ如キ苦肉ノ策ヲモ講セサルヲ得サルヘク而モ其ノ結
 果ハ「尤モ右手段モ「コルホトズ」ノミニ倚賴シ個人農ヲ無視スルモ
 ハトセテ多少趣ヲ異ニスルモ個人農ハ事實上之ヲ無視スルヲ得スト右
 ニテ明カナルカ如ク結局一般農産ノ充分ナル向上ニハ左シテ貢獻シ得
 ベキモノニアラスト謂ハサルヘカラサルカ「ソ」聯邦ニ於ケル農業ノ

在ソヴィエト聯邦日本大使館

機械化即チ「トラクタ」、「コンバイン」、自動車及其ノ部分品生
 産未タ意ノ如クナラサル實情ニ付テハ累次報告ノ通ナリ
 右報告ス

在ソヴィエト聯邦日本大使館

公 信 案

文書課長

(富井)

別紙

(甲 號 用 紙)

文書課發送 昭和七年拾月拾八日發送済

淨書

正校(原稿)

(44)

(淨書)

(44)

主 歐米局長

任 第一課

(起草昭和七年十月十三日)

歐一聯第

三三三

號

昭和七年拾月拾五日附

附屬書

通

受信

人名 石黒 農林次官

發信

人名 有田次官

件名

「ホルホース」個人農所有馬匹賃借
權付共ニ附スル件

込 綴

石黒農林次官
有田次官
ソ 傳 印 紙

本件ニ關シ今般在「ソグイ」上聯邦「廣田大使」ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ

付爲御參考右茲ニ送付ス

公 信 案

外 務 省

(昭和七年九月十九日附在「ソグイ」上聯邦大使館來信 世 普機第三四一號寫 附屬書)

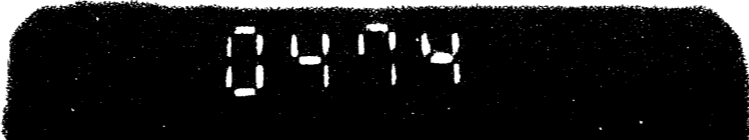
寫一 部

E.Y. 1.0.1-1

15-23

(註)

E-1621



通商局

分類 E41.0.1-1

歐米局
公第一〇四號

昭和七年十二月七日

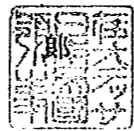
在オデツサ

領事 田中文一

外務大臣伯爵 内 田 康 哉 殿

「ウクライナ」ニ於ケル肉類及馬齡薯ノ
賣買禁止ニ關スル件

曩ニ本年五月「コルホズ」商業ニ關スル聯邦政府及黨本部ノ決定ニ依
ル農民ノ農産物販賣許可ニ關聯シ聯邦政府及黨本部ハ五月十日付決定



三録件
昭和八年一月三日 接受

B11

ヲ以テ本年第三期ノ農民ヨリ買上クヘキ家畜ノ豫定數ヲ半減シ村落住
民ノ家畜屠殺ニ關スル一切ノ制限ヲ撤廢シ政府納入義務ヲ完了セル農
民ノ家畜禽類自由販賣ヲ許シ又内閣ハ六月十四日付決定ヲ以テ馬齡薯
ノ納入量ヲ減シタリ
然ルニ肉類家畜及馬齡薯ノ政府買上ハ成績思ハシカラサルヲ以テ「ウ
クライナ」政府ハ今般特定ノ州及「ライオン」ニ於ケル右賣買ヲ禁止
セルカ其法令ノ要領左ノ如シ
一、肉類及家畜賣買禁止ニ關スル件
「ウクライナ」内閣ハ十二月三日付決定ヲ以テ目下多數「ライオン」
及州ニ於テ行ハレツ、アル肉類ノ投機的賣買ヲ取止メ煽動及惡意的反
抗ニ依リ肉類買付計畫ノ遂行ヲ妨害シツ、アル「クラキ一分子」ニ致命

E-1621

0475

的打撃ヲ與フル爲メ又投機者及仲買者ノ活動ヲ完全ニ停止シ肉類買付計畫ヲ適時ニ完了セントノ趣旨ヲ以テ(一)「チエルニゴフ」「キエフ」及「ウインニツア」州ニ於テハ「ライオン」全部ニ涉リ(二)其他ノ各州ニ於テハ故意ニ納入計畫ノ實行ヲ忌避シ或ハ肉類ノ投機及仲買ノ行ハレツ、アル「ライオン」ニ對シ各州執行委員會ノ決定ヲ以テ肉類、家畜及肉産物ノ賣買ヲ禁止スヘキ旨ヲ公布セリ

三、馬齡薯賣買禁止ニ關スル件

「ウクライナ」内閣ハ十二月一日付決定ヲ以テ地方多數「ライオン」ニ於テ農民ハ特約ニ依ル馬齡薯ノ納入ヲ怠リ以テ馬齡薯ノ買付計畫ヲ故意ニ破綻セシメ同時ニ多量ノ馬齡薯ヲ個人市場ニ於テ投機的價格ニテ販賣シツ、アル事實ニ鑑ミ(一)特約ニ依ル馬齡薯ノ納入計畫ヲ實行ス

ル迄「チエルニゴフ」州十二「ライオン」、
「キエフ」州四「ライオン」、
「ハリコフ」州四「ライオン」ニ於ケル馬齡薯ノ賣買ヲ禁シ(二)
(イ)多數「ライオン」及「コルホズ」ニ於テハ特約義務ヲ充分履行セス
馬齡薯ヲ市場ニテ賣買ス(ロ)多數「ライオン」ニ於テハ地積及既定標準
ニ比シ又屢々近接「コルホズ」ノ爲メ、時トシテハ「ライオン」ノ爲
ニ多量ノ種子用馬齡薯ヲ控除シ(ハ)家畜飼料用馬齡薯ノ標準著シク高ク
(ニ)實在セサル企業ノ爲ニ馬齡薯ヲ控除シ(ホ)「コルホズ」ハ特約義務ノ
履行ニ先チ多量ノ馬齡薯ヲ「コルホズ」員ニ交付セル事實多數アルコ
ト等ノ事實アルヲ認メ内閣ハ州及「ライオン」執行委員會ヲシテ十日
間ニ各「コルホズ」ノ馬齡薯現有高ヲ調査セシメ不合法的控除額及「
コルホズ」員ニ配給セル馬齡薯ハ特約ニ依ル馬齡薯納入計畫ヲ實行ス

B11

B11

ル爲之ヲ返還セシムル旨定メタリ

「ウクライナ」農民ノ馬齡薯納入量ハ前記内閣決定ニ依リ當初規定ノ二百十三萬二千噸ヨリ九十二萬噸ニ減セラレ其後更ニ變更減少セラレタルカ十一月二十日現在買上ヲ了セル高ハ二十三萬九千五百噸餘ニシテ年「ブラン」ノ四三六%ナル由ニシテ而モ買上終了期ノ十一月十五日ハ既ニ經過シタリ而シテ右賣買ヲ禁セラレタル「ライオン」ニ於テハ馬齡薯ノ納入高ハ年「ブラン」ノ一四%乃至三七%ナルモノナリ本禁令ハ從來ノ本件關係法令ノ規定ヲ曲解又ハ違反セルヲ取締ル爲メ特別ノ法令トシタルモノナルカ最近ノ情勢ヨリ推シ嚴重勵行セラルヘシト思ハル、カ左ナキタニ缺乏セル是等主要食料品ノ市場出廻ハ更ニ缺乏シ現ニ其價格ハ毎日暴騰シツ、アリ

右報告申進ス

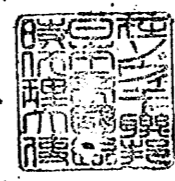
通商局
朱印

公第 四四一 號

昭和七年十二月十三日

在「ソヴィエト」聯邦

臨時代理大使 天 羽 英



外務大臣伯爵 内 田 康 哉 殿

穀物買付助長策ニ關スル件

一、十二月三日ノ諸新聞ハ聯邦人民委員會議及黨中央委員會ノ大要左記要旨ノ決定ヲ發表セリ

(一)「タタール」自治共和國及莫斯科州ハ期限前ニ穀物買付年計畫ヲ實行シ且春蒔用種子ノ準備ヲ了シタルニ鑑ミ爾今右共和國及州ノ「コルホーズ」員及勤勞個人農ニ對シ國營及「コーベ

ラチーブ」機關ニハ右共和國及州ノ市場ニ於テ自己ノ穀物(麥粉、粒、「パン」)ヲ自由ニ販賣スルコトヲ許可ス

(二)其ノ他ノ地方ニシテ若シ期限前ニ穀物買付年計畫ヲ實行シ且春蒔用種子ノ準備ヲ了シタル時ハ向地方ノ「コルホーズ」、「コルホーズ」員及個人農ハ本年五月六日附決定ニ依リ定メラレタル期限即チ一九三三年一月十五日以前ニ自己ノ穀物ヲ自由ニ販賣スルコトヲ得

(三)穀物年計畫ヲ實行セス且春蒔用種子ノ準備ヲ了セサル地方ノ「コルホーズ」、「コルホーズ」員及個人農ニ對シテハ穀物ノ自由販賣ヲ許容セス若シ自由ニ販賣スルトキハ本年八月二十二日附聯邦中執委員會及人民委員會議ノ決定ニ從ヒ投機トシテ處罰セラルヘシ

三、本年度穀物買付計畫ハ原計畫ニ比シ著シク減少セラレタルニ拘ラス本年度農産減少ノ爲ニ其ノ實行成績思ハシカラス依テ「ソヴィエト」政權ハ昨今寬嚴兩刀ノ態度ヲ以テ之カ實行促進ニ付焦慮シ居レルコトハ本年十一月二十四日附公第四一八號拙信中ヲ以テ報告ノ通ナル處今回ノ右決定モ「ソヴィエト」政權ノ此ノ焦慮ヲ寬嚴ヲ巧ミニ配

E-1621

0478

劑ス一ヲ示スモノナルト共ニ他方同時ニ本年度穀物買付ノ不成績（即チ同決定ニ依レハ成績良好ナルハ「タタール」自治共和國及莫斯科州ノ二地方ニ過キス）ヲ如實ニ暴露スルモノニ外ナラス

因ミ十二月四日ノ諸新聞ハ其ノ社説ニ於テ本決定ヲ以テ穀物買付ヲ更ニ促進シ且第三次五年計畫ノ最初ノ春蒔ヲ保障スヘキ重大ナル助成手段ナリトナセルカ他方同日ノ「ブラウダ」ハ「本年度「ウクライナ」ノ穀物買付ノ遅々タル實ニ恥ツヘシ」トノ見出シノ下ニ同地方ノ不成績ヲ詳報セル通信ヲ掲ケタリ

三、尙右穀物買付ノ不成績ニ關聯シ附言スヘキハ「パン」ノ主タル代用品タル馬鈴薯ノ買付ニ付本年ハ從來ニ見サル活動行ハレ居ルコトナルガ新聞報道ニ依レハ同買付モ亦等シク思ハシカラサル如ク右ハ穀物買付ノ不成績ニ於ケルト同シク一般農産ノ減少ニ基因スルモノナル處右當局ノ馬鈴薯買付ニ於ケル努力ハ又其ノ半面ニ於テ右本年度穀物買付計畫實行ノ困難ヲ裏書スルモノニ外ナラス

右報告ス

1311

